

『日中観光ビジネスの人類学—多文化職場のエスノグラフィ』  
(田中孝枝著・東京大学出版会・2020年) 講評

本書は、中国の日系旅行会社に働く人びとの民族誌であり、日中間の国際的な観光ビジネスの現場で働く人びとの視点から、その実態を文化人類学的に明らかにしようとするものである。筆者は、本書で取り上げる中国広東省広州市にある日系旅行会社（美高旅行社（仮名）において約1年にわたり仕事をしながら参与観察をおこなっている。

本書では、観光ビジネスの現場のダイナミズムを描き出すことを意図して、文化人類学的なリスク概念に依拠した「リスク管理」という局面に注目している。また、人びとの視座から観光ビジネスを考察するべく、旅行会社の文化仲介者としての営みと仲介される文化としての「リスク管理」に焦点をあてている。仲介プロセスを論じた第Ⅱ部では、多文化・多言語状況にある美高旅行社の職場の実相を丁寧に描き出しており、リスク管理・対策が多範かつ多次元であること、日本人スタッフと中国人スタッフのリスク対策は一樣ではないことが浮き彫りになっている。本書では日常的なリスク管理のレベルを越えた「観光危機」の局面にも注目している。これについて論じた第Ⅲ部では、台湾の政権交代と四川大地震の事例を取り上げ、危機の中でたちあられる観光の政治化や観光現場の政治との交渉の様相、国家主導のレジリエンスと、時に国家の動きに呼応する観光ビジネスの現場のレジリエンスの手法が明示される。

本書の特に興味深い点としては3点を挙げることができる。まず、先行研究のほとんどない中国における日系旅行会社のエスノグラフィという点である。2つ目は、観光ビジネスの現場の動態を捉えるべく、リスク管理、さらには観光危機とレジリエンスの局面に注目した点である。そして3つ目は、旅行会社を文化仲介者、リスク管理を仲介される文化と捉え、その仲介プロセスを微視的に描き出すことで、観光の現場にたちあられる文化的パターンの特徴や、日中間の観光ビジネスの現場での「中間領域」の確保の重要性を浮き彫りにした点である。

他方、本書には理論や概念の再考の議論にあまり及んでいない点に物足りなさがある。しかし、徹底的な現地調査から得たデータに基づいて、これまで数少なかつた多文化・多言語状況にある観光ビジネスの現場の実相を描き出した本書は、観光研究の発展に寄与する労作として評価することができる。著作奨励賞授与に値する作品である。

以 上

## 目次

### 序章

第1部 日中間における観光と観光ビジネスの展開（日本から中国へ、中国から日本へ；中国日系旅行社という職場）

第2部 観光ビジネスにおける日常的なリスク管理（観光ビジネスの不確実性；観光ビジネスにおけるリスクの回避—責任の所在をめぐるポリティクス；日本的サービスのためのリスク管理の変容）

第3部 観光危機からのレジリエンス（東アジアにおける観光の政治化；震災という観光危機—抗震救災のナショナリズム）

### 終章